

ヒューマンニュースレター

W E L O V E H U M A N !

2025年11月



業務変革部門
優秀賞

株式会社ヒューマングループ

日本DX大賞
2025

長崎県内で初！
「日本DX大賞2025」
業務変革部門で優秀賞受賞！

ITコーディネータ協会表彰2025
社内変革賞も受賞しました！
左：日本DX大賞2025トロフィー

2025年7月、優れたデジタルトランスフォーメーション(DX)の事例を表彰する「日本DX大賞2025」の業務変革部門において、長崎県内の企業・団体が初めてヒューマングループが**優秀賞**を受賞いたしました。

本年度の日本DX大賞は地域DXや庁内DXなど6部門があり、応募数は**過去最多の158件**。
今回受賞した業務変革部門では、大賞を受賞した大阪大学のほか優秀賞となった旭化成など、ヒューマングループを含め4社が最終選考に残っておりました。

人が輝く経営を目指して進化し続ける「**ヒューマニティー DX**」。その取り組みを紹介します。

目次

長崎県内で初！

1

「日本DX大賞2025」

業務変革部門で優秀賞受賞！

ヒューマングループ通信

2

管理なし、仕組みで動き、

人が輝く「ヒューマニティーDX」

リエコラム 2

3

72年の想いとこれからの挑戦

ヒューマングループ

代表取締役 内海 梨恵子

ヒューマンバス・トラベル通信 4

小型バスの魅力をもっと身近に！

ヒューマンスクール通信

5

「ヒューマン」に込められた

社会福祉への想い

ヒューマントーク 42

6

誰もが免許を取れる

社会を目指して

鹿沼自動車教習所

代表取締役 古澤 正巳様

KAZコラム 52

10

会長旅行記

ヒューマングループ

代表取締役会長 内海 和憲

ヒューマンポエム

12

カフェPonoオープン！

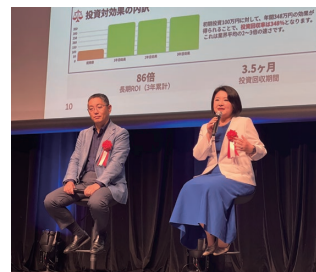


ヒューマン
グループ 通信

管理なし、仕組みで動き、 人が輝く『ヒューマニティーDX』

ヒューマングループの社内システム開発における取り組みとその効果をご紹介します。

プログラミング知識が無くてもシステムなどを開発できるノーコードツールを活用して、バックオフィス部門を中心に1年間で自社で100以上のアプリを開発。**低投資**で基幹システムを再構築し、**大幅な効率化**と**具体的な成果**が創出されている点が評価され、「**実践の成果**をもとに、他企業などにも広め事業を起こしている。**まさに地に足がついている**」と日本DX大賞審査員の方から嬉しいお言葉もいただきました。



パネルディスカッションの様子

『ヒューマニティー DX』の一例

工数削減98%

業務効率化系

- ・タスク管理
- ・業務自動化
- ・レポート自動生成
- ・音声入力

リマインド・自動化で業務漏れ防止！

タスクの進捗状況確認や毎月の定型業務のメッセージなどを自動通知にしています。業務を漏れなく管理できるし、進捗状況も確認しやすいので、「あの件どうなってる？」の確認の手間がほぼなくなりました。



経理スタッフ

情報共有促進

コミュニケーション系

- ・チャット
- ・掲示板
- ・ラッキーアンラッキー報告
- ・社内イベント報告



企画スタッフ

One Chat (チャット機能)で確認がスムーズに！

社内連絡をチャットに一元化したことにより、ファイルのやり取りや確認・報告などがスムーズになり、社内での情報共有のスピードが上がりました。「OK」などスタンプのみで反応できるので、無駄なやり取りが発生せずレスポンスもスマートです。

稟議効率98%UP

総務・管理系

- ・稟議
- ・物品、在庫管理
- ・建物管理
- ・書類テンプレート

稟議申請の電子化で承認フローが見える！

これまで紙で回覧していた稟議書をシステム上で申請・承認することで最終決裁までのスピードが大幅に短縮しました。承認フローが可視化され、どこで止まっているかもすぐに把握でき助かります。



経理スタッフ

強みを活かして新規事業の更なる拡大へ

ヒューマングループの強みは「**変化を楽しみ、新しいものに躊躇なく飛び込む**」ところ。

ヒューマングループでは、これまで自社のため蓄積してきた**ノウハウ(ヒューマニティーDX)**を「新規事業」として外部企業に対しても提供を行っております。今後、システム導入支援や企業のデジタル化全般の支援事業の拡大をさらに進めて、地方の中小企業の発展に貢献してまいります。



DX大賞のエントリー資料

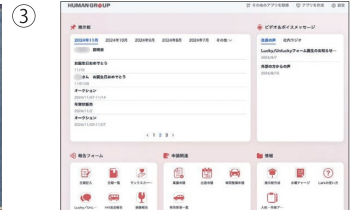
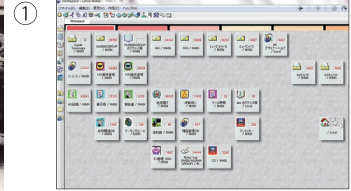
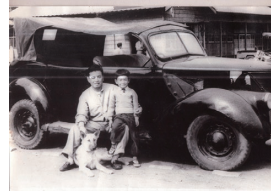


企業向けAIセミナー

ヒューマングループ デジタル投資の歴史

現在、3代目社長のもと社内DXが劇的に進んでいる弊社ですが、ヒューマングループのDXの歴史は、初代社長による自動車学校創業時に遡ります。

- 1952 ▶ 初代社長が自動車学校を創業 ①
- 1980 ▶ オフィスコンピューター導入
- 1989 ▶ 2代目社長が就任
- 1996 ▶ 社内システム構築(ソフトバンク協力) ②
- 2001 ▶ 経済産業大臣賞 情報化推進部門にて受賞 ③
- 2003 ▶ 現社長(内海梨恵子)が入社
- 2022 ▶ 新社内システム 運用開始
- 2024 ▶ 3代目社長が就任、社内システムをLarkへ移行 ④
- 2025 ▶ 3代目社長がITコーディネーターを取得
長崎AI祭り開催 ⑤
日本DX大賞2025 業務変革部門優秀賞 ⑥
ITCA表彰2025 社内変革賞



リエコラム ② 72年の想いとこれからの挑戦



今年は「日本DX大賞」優秀賞受賞という嬉しいニュースを表紙に掲載することができ、とても嬉しく思っています。ただ、私が本当にお伝えしたいのは、「DXが進んでいる会社です」ということではありません。「72年間変わらず大切にしてきた想い」についてです。創業者の内海幸輝は、自動車学校を始めた当時から「仕事を通じた社会貢献」という信念を持ち、障がいのある方への教習を日本で初めて始めました。今回、この社外報でご紹介している障がい者教習(P5)の原点です。会社名「ヒューマン」の由来である「深い人間愛」です。

私が入社した2003年には、すでに社内のデジタル化は進んでいました。2代目社長(現会長)の「全員経営、全員コンピューター」という掛け声のもと、地方企業としては異例の先進性で取り組んでいたのです。そして2024年、3代目の私がバトンを受け取りました。

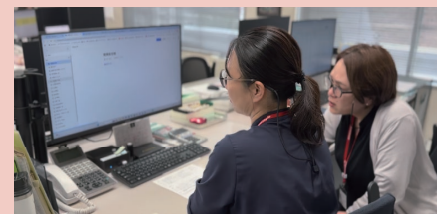
DX大賞受賞のエントリー資料を作る中で、改めて気づいたことがあります。私たちが目指してきたのは、ツールの進化ではなく、**人の進化**でした。

この社外報でご紹介している弊社の事業すべてに共通しているのは、「**ヒューマンで人々を幸せに**」という経営理念からの行動です。デジタルは手段であって、目的ではありません。この社外報を紙で発行しているのも、同じ想いからです。**デジタルとアナログ、両方のタイヤを同じ大きさで回していく**。その先に、一人ひとりが輝く組織があると信じています。72年の歴史と、これからの未来。変わらない想いと、変化を楽しむDNA。この両輪で、歩んでいきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

ヒューマングループ 代表取締役 内海 梨恵子



DX大賞のエントリー資料



業務風景



ヒューマンバス
ヒューマントラベル
通信

Playing With Joy!

バスの魅力をもっと身近に!

日々、たくさんのお客様と笑顔を乗せて走るヒューマンバス。初めてハンドルを握る楽しさ、バスドライバーという職業の魅力を再発見していただける運転体験会を開催しました。

ヒューマンバスの運転ができる!運転体験会開催

2025年3月と9月に「**バス運転体験会**」をヒューマンスクール早岐のコースにて開催いたしました。3月は8名、9月は6名の申し込みがあり、中にはお子様を連れて家族で参加いただいた方もおられ、にぎやかに開催することができました。

当日は、開催の挨拶後にすぐに乗車開始。準備した小型バスは**オートタイプ**と**マニュアルタイプ**があり、最初はオートタイプであらかじめ指定したコースを3周回っていただき、マニュアルタイプに乗り換えて同じく3周回るという体験内容でした。

当社ドライバーが横について、シートの合わせ方、ミラーの合わせ方を聞いてからのスタート。走行中も適宜アドバイスしながら参加者の方に走行していただきました。皆さん体験乗車が終わってからも「まだ乗りたい」というお声もあり、追加で運転体験をしていただきました。

お客様アンケートからは、運転が難しかった、難しくはなかった、車によっては難しかったと丁度分かれてしまいましたが、マニュアル車のシフトチェンジが難しかったようです。「**憧れのバスの運転ができて良かったです**」「**未経験の方にはとても良い体験会だと思う**」と満足されたようでした。

参加者の方からも好評だったので、今後も定期的に開催して、**バスの運転の楽しさ**や**バスドライバーの仕事**を知っていただけるように計画していきたいと思います。



お客様の声

ヒューマンバスをご利用いただいたお客様より、嬉しい感想が届きましたのでご紹介します。

夕方に急な雨になり、バスのトランクから運転手さんが**傘を差し出してくださいました**。
ありがとうございました。
高校生より

ドライバーさんの丁寧な運転のおかげで、私達は安心して修学旅行を楽しむことができました。**ドライバーさんとの出会いも、今回の修学旅行の大切な思い出の一つです**。
本当にありがとうございました。

小学校 修学旅行生より



お客様から感謝状を
いただいたバスドライバー

修学旅行で福岡、佐賀方面に行きました。ガイドさんや添乗員がついてなかったのですが、ヒューマンバスのドライバーさんが**1人3役を対応してくれ無事終了しました**。ありがとうございました。

中学校 先生より

雨の中、色々な出来事があり明るい、陽気な参加者全員がそれなりに楽しんでくれて楽しい思い出旅行になりました。(事前のメールは確認できていなかったが)運転手さんからの伝言で把握出来ていましたので**混乱もなく行動出来ました**。また、機会がありましたらよろしくお願いします。

団体旅行 幹事様より





ヒューマンスクール
通信

Driving With Joy!

「ヒューマン」に込められた社会貢献への想い

心身の機能に障がいを持つ方への運転支援体制を構築しているヒューマンスクール。
誰もが分け隔てなく暮らせる社会の実現を目指します。

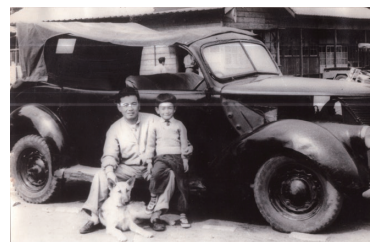
ヒューマンスクール早岐は、教習所として**日本の民間で初めて**障がい者教習を昭和37年に開始しました。これは、佐世保少年院での更生支援なども行った初代社長・内海幸輝の「深い人間愛」に基づくものです。会社名「ヒューマン」に込められたこの精神が、私たちの教習の根幹であり、今も脈々と息づいています。

障がい者教習、安全と社会参加への道

身体に障がいがある方は、免許に特別な条件がついています。そのため、個々の身体特性に合わせた**運転補助装置**(手動運転装置や左足アクセルなど)を装備した特殊車両を教習で使用します。指導員は常に細心の注意を払い、体調管理にも配慮。免許取得後も車両改造などを含めたトータルサポートの体制を整えています。私たちは、この教習を通して**お客様の人生をサポート**しているという誇りを持っています。

今年、骨形成不全症のため身長110cmの方が卒業されました。免許条件は「普通車は各ペダルを操作上有効な状態に改造したものに限り」という、非常に専門的な対応が必要なものでした。我々指導員も常に「こんなことができるのではないかと試行錯誤を繰り返し、知恵を絞りながら教習を実施しました。毎時間ごとのお客様の成長を感じることができ、私たち指導員も多くのことを学ばせていただきました。この達成の瞬間こそが、指導員としての最大の喜びです。

また、2025年、二つの重要な**運転支援体制**を構築・実践しました。



初代社長と2代目社長(現会長)



指導員と卒業された方

1 高次脳機能障がいの方への支援

耀光リハビリテーション病院(医師、理学療法士、作業療法士)と連携し、7月より運転支援を本格化。医療専門職の知見を取り入れた個別評価・指導を実施し、9月末までに3名を支援しました。この医療と教育の連携により、**専門性と質の高い支援**を実現し、**安全運転の確保と社会福祉への貢献**を両立させています。



中央:耀光リハビリテーション病院の講師

2 発達障がいの方への支援

技能検定員の中村、中里が、教習に不安のある方の運転免許取得をサポートする「**つばさプラン研修**」を修了し、専門知識を習得しました。今後はこの知識に基づき、適切な支援と指導を開始することで、多様な特性を持つ方々へ環境を提供し、安全運転指導の質の向上を強化します。

今後も創業者の「**人間愛**」を胸に、より多くの方に安全運転の機会を提供し、**誰もが分け隔てなく暮らせる社会の実現**に貢献してまいります。



優良事業所表彰時

ヒューマンスクール松浦 表彰

2025年6月、ヒューマンスクール松浦が長崎県危険物安全協会より**優良事業所**として表彰されました。昭和49年に松浦市危険物安全協会に入会以来、永年にわたり**危険物の貯蔵取扱い**において、適正な保守・管理・教育を行っていたことが評価され、かつ、無事故を他の模範となると認められ今回の表彰に繋がりました。

今回の受賞は、担当者が業務に精進した結果であるとともに、松浦校全員の協力があつたからこそこの受賞であります。今後も引き続き事故のないように危険物貯蔵の**適正な保安管理**に努めていきます。



誰もが免許を取れる社会を目指して

2025年、ヒューマンスクール早岐は発達障がいのある方々の運転免許取得を支援する「つばさプラン」の取り組みをスタートさせました。今回は、この取り組みのパイオニアである鹿沼自動車教習所の古澤正巳社長をお招きし、つばさプラン誕生の背景から、全国展開に至るまでの道のりを伺いました。

内海力： 古澤社長との出会いは、全日本指定自動車教習所協会連合会（以下、全指連）のIT委員会で鹿沼自動車教習所に伺った時でした。失礼ながら、こんな大変で儲からないことにチャレンジされていることに驚きました。

古澤： 実は、私がこの業界に入ったのは60歳を過ぎてからなんです。父が経営していた教習所が2年連続で赤字を出し、誘われて。公務員だった自分に経営なんてできるわけがない、と最初2年は断り続けました。市役所では部長として、県内一のダム事業や工業団地づくりなど、大きなプロジェクトに関わってきました。でも、それは「市役所の部長」という肩書きがあったこと。自分自身が何者なのか、自分の力を証明したことがなかったんです。

会社に入ってまずやったのは、賞与と給与の1割カット。非同族経営で、リーダーシップを確立する必要がありました。指示を出しても聞いてもらえない。明らかに無視されている。そんな状態から、新しい経営の柱を作らなければと考えたんです。

最初は、塾をやろうか、送迎請負業か、ドローンか…いろいろ考えました。でも2年かけて気づいたんです。**新しいビジネスの芽は、実は足元にありました。**毎年何人かのお客様に返金が発生していました。「上から目線で叱られて嫌になった」「教習についていけない」という理由で。スタッフに聞くと「勉強しないから取れないんですよ」と言うんです。いやいや、それを取らせるのが教習所じゃないの、と。近くの福祉施設から毎年2人ほど生徒が来るのですが、2人のうち1人はだいたい免許が取れない。そのような子を、特別な支援もせずに10年も受け入れていたので、これはダメだと思いました。



左：内海会長 右：古澤社長

公務員時代、議会答弁で発達障がいについて質問されることがあり、当時は表面的な理解だけで答弁していました。でも、卒業式に行くと、どの学校でも必ず1～3人は欠席者がいるんです。不登校、引きこもり。その原因の一つが発達障がいでした。市役所から家に帰る道、鹿沼のメインストリートを歩くと「この家の息子さんは引きこもりだな」と分かる。5メートル行くと、右側の家にも引きこもりがいる。親戚にもいる。当時調べたら児童・生徒あたりの発達障がいの方の割合は5%くらい、今では8.8%とされています。

5%の人が働かずに人生を過ごす。時代を担う子どもたちが引きこもっていて、税金を払わない人に育っていくとしたら、自治体も国も成り立たない。60歳で退職すると、人間は明日の日本を心配し始めるんですね(笑)。

内海力： 社会課題と業界課題、そして会社の経営課題が、すべてつながったわけですね。

古澤： そうなんです。いくつかの要素をまとめていくと見えてきました。**発達障がいの人を支援して、閑散期のお客さんになってもらえたら。**引きこもっていて学校に行かない人は、閑散期でも教習所に来られる。それで閑散期の赤字の月が6ヶ月から3ヶ月になったら更に嬉しいな、と。

花火は打ち上げたものの、何も分からない。宇都宮大学のホームページから「発達障がい」で検索して、梅永雄二先生を見つけました。

研究室のドアを叩いて「引きこもりの人が教習所に来てくれれば、就職もできるし、うちも閑散期の赤字が減る。助けてください」と。最初は断られました。でも、「先生、勉強ばっかりしてて、アウトプットしないんですか」と言ったら「私だって社会活動をやってますよ」と怒られました(笑)。発達障がい親の会の事務局をされて

いたんです。梅永先生の協力で、大学の先生や親の会からの生徒と一緒に、夏休みにパイロット事業を始めました。やってみたら、**発達障がいの子でも支援をすれば免許は取れることが分かった。ただ、システムがないとダメでした。**

そして決定的だったのが、全指連の吉田専務理事との出会いです。

コヤマドライビングスクールのパワーアップセミナーで、吉田専務理事が「18歳の人口が減るのは18年前から分かっていたのに、今になって文句を言っているのはおかしい」と強烈なことをおっしゃったのを聞いて、この方は信用できると思ったんです。

ご挨拶をして、1週間後、簡単な企画書を持っていったら「こんなペラペラの企画書じゃダメだから、もっとボリュームミーな企画書を作って1週間後に持ってきたさい」と言われました。1週間、必死で資料を集め、知識の寄せ集めみたいな企画書を作って持っていったら、「勉強しといたから」って吉田専務理事の机の上に発達障がいの本が積んであるんです。「免許取れるよ。応援するから」と言ってくださいました。

内海力： 制度的な問題はどうかクリアされたんですか？

古 澤： 私は、免許制度に発達障がいの方が入り込んで、法律を変えないとできないとなったら、この事業はできないなと思っていました。そうしたら吉田専務理事が「そんなの心配するな、俺が心配する。制度ができるかできないかは俺に任せろ。お前はやることに集中しろ」と言ってくださいました。

法律に「**合理的配慮**」という言葉がある。仮免も卒業試験も全部既存制度でやっている。発達障がいでも免許を取った子ちゃんと国家資格取れてるんだから、あくまでも合理的配慮。「つばさプラン」が行っている支援体制は既存の制度を包んでいるだけ。**あくまでも支援体制があるだけなんです。**全指連からは補助金もいただき、委員会も作り、学術的なデータを取って、「これは取れる」ということを証明しました。私は今でも、吉田専務理事には本当に頭が上がらない。頭のいい方で魅力的な人で、つばさプランを辞めたくなる時もあるんですけど、吉田専務理事がこんなに応援してくれた事業を辞めるわけにはいかない、と踏ん張ってきました。

内海力： 具体的に、どのような支援の仕組みを作られたんですか？

古 澤： **入所前、入所中、入所後という3つのフェーズ**があります。入所前は、プロフィール作成、面談、アセスメント。この3つをやると「こんなに時間をかけて面談するんだ」と言って信頼関係ができるんです。親御さんも「よろしくお願いします、預けます」という、スタートラインに立てる。富山大学の水内豊和先生と一緒に、教習に特化したTPA(Tsubasa Plan Assessment)という評価システムを作りました。これが今、外部にも販売させていただいて、年間140件ぐらいの受注があります。

入所中は、専用チームでスタートして、**コーディネーターが最初の4～5時間は同乗**します。教習指導は指導員以外やっちゃダメなので、コーディネーターは喋らない。後ろに乗っているだけ。降りてきた後、支援するんです。今日は失敗して落ち込んで、明日来なくなっちゃうかもしれない。そういう時に、コーディネーターが



勉強会の様子

話を聞いて、環境を作る。技能は自転車に乗るのと同じだと梅永先生は言います。**問題は、教習所に来続けられることなんです。**生活支援、ソフトスキルも大事です。暑いのに冬物のセーターを着てくる子もいますから。汗をびっしょりかいてたら、「困ったらいつでも電話していいよ」と声をかける。そういう環境づくりを常にやります。

入所後は、アンケートを取って、ヘルプカードを持たせます。「私は発達障がい、いろんなことができないので、お父さんに電話してください」というようなカードです。

古澤： パニックになっても、消防に連絡すれば、今は携帯から位置情報が入るので助けられる。**そういう安心を教えてやるんです**。今まで400人も500人も卒業してますけど、**大きな事故はほとんど起きてません**。逆に、時速40～50キロで走れない気真面目な子が多くて、後ろが渋滞することはあっても、事故はほとんど起こしていません。最初、社員は「そんな暗い仕事やるのは嫌だ」って顔に書いてありました。ある指導員には「暗い顔した、わがままな子が毎年50人も100人も来たら、校内が暗くなっちゃうよ」とはつきり言われました。



でも、やっていくうちに、**社内に化学変化が起きました**。夜中の12時にLINEを送ってきて「こういう見積書があるんですけど、買っていいですか」と。トップマネジメントに連なる**ミドルマネジメントが自然にできた**。これまでの指導員至上主義みたいな現場に、心理学を大学で卒業した女性がいたり、NPO法人から支援員がいたり、**多様性が社内に出てきました**。宇都宮大学の先生が褒めてくださるのは「**鹿沼自動車教習所は発達障がい者に対する空気感が違う**」ということ。システムとか、コーディネーターが配置されているとかいろいろあるけれども、指導員を含めた空気感が違う。それが一番の強みじゃないですか、と。

北海道から沖縄まで、お客さんが電車に乗って来てくれるようになりました。うちだけでやってたんじゃもったいないと思い、そのタイミングで、NPO法人や大学の先生と協力して、研究会を立ち上げました。吉田専務理事の後に就任した横山専務理事も、支援マニュアルを作るのに応援してくださって、今も研修会をやってくださっています。

最近是全国研究会の加入も、こちらからお願いしてやるのではなく、「やってみたいんだけど」ということで、一人一人お申し込みいただく方が多いんです。女性社長が多いですね。「**社員の中にやりたいっていう人が出てきた**」と。上から下ろすではなく、下からやりたいって言ったら、社内に増殖するのは早い。落とし込みをやらなくて済む。

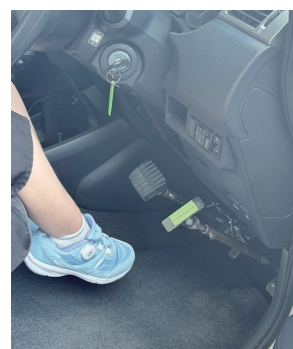
内海力： そうなんですよ。弊社も早く組み込んだかったのですが、誰かがやりたいって言うまで待っていました。

内海リ： うちもまだ走り出したばかりですが、明らかにもともと前向きだった**スタッフの意識が2段階ぐらい上がった**という手応えはあります。社内で温度差は若干ありますが、古澤社長がおっしゃったように、検定員とか指導員という資格とは別の資格として、私たちも位置づけていきたいです。福祉関係の勉強をしたような方へ「**教習指導員にならないか**」というアプローチをしてみようか、という話も出てきました。

今までは、運転が好きな人、バイクが好きな人という切り口だったんですが、**指導員たち自ら「こういう人たちに来てほしい」という視点が**広がりました。

古澤： 確かに、社員の、本当に、**給料もらっただけじゃない喜び**を感じたいっていうか。自分を認めるっていう機会ってなかなかないんでね。そういう人がたくさんいると、そこから何か違うものが生まれてきますよね。

内海リ： つばさプランを始めるのとはほぼ同時期に、**高次脳機能障がい向けの運転再開支援**も始めました。つばさプランをやりたいと手を挙げた副管理者の中村が「これも同じ分野だから、つばさプランの学びも活かせるし、どちらも**普通の生徒さんへの教習の質の向上という意味でも価値がある**」と。今年やりたいと言い



教習車の運転補助装置

出して、2つのプロジェクトを同時進行でやってる状態です。うちはもともとと身体障がい者の方向けの教習のキャリアがかなりあります。1960年代からやっているの、専用の車両もある。心、体、これを自動車学校だけではなくいろんな専門家の方たちと一緒に取り組んでいくというところに、すごくやりがいを感じているスタッフが今増えてきている。きっとその生徒さんの教習の品質も向上しているはずだと思って、頑張ります。

しょうというのが、今回のニュースレター全体を通したテーマになってます。

古澤：発達障がいも高次脳機能障がいも、やっぱり脳の一連のテーマなんですよ。全指連もそのように位置づけています。

ヒューマンさんは、下地がもうできてますね。東京のコヤマドライビングスクールさんも、福祉関係のメニューがあって、後からつばさプランが入ってきた。障がい者支援をやってる歴史がある会社だから、発達障がいの子の面倒を見るって、そんな面倒なの嫌だよってというのが、どこにもない。やっぱり伝統ってすごいなと思いました。

それよりもっと、ヒューマンさんの場合は、もう、ポリシーからして「ヒューマン」だから(笑)。定着は多分早いんじゃないかなと思います。

だから、ヒューマンさんは会社の名前がヒューマンで、そういうところを志して、新社長もつばさプランを評価してくださったっていうのは、本当に光栄なことで、ありがたいことですね。

内海リ：最後に、これからつばさプランを検討していく自動車学校の経営者の方、もしくは私たちのように始めたばかりの学校にメッセージをいただけますか。

古澤：多分、特に若い経営者って、だいたい第三世代だと思うんですね。全盛期にすごく利益が上がってた会社を預かっちゃった。社会が変化する中で、中興の祖にならないとダメ。焦っていて、いろんなことにチャレンジするのはいいんですけど苦しんだ方がいいと思うんです。でも、教習所には法律があって、社会から求められて、モータリゼーションの一翼を担ってきたソーシャルビジネスなので、お金儲けだけじゃダメだよって私は言いたい。

逆に、安全地帯にいる私が言うと、戦いのさなかにいる第三世代の若い社長たちは「そんなのんびりしたこと言ったら食べていけない。社員に給料払えない」というのもわかるんで、それはそれで否定はしません。けれども、やっぱり落ち着いた経営というか、そういう中で、いろんなものが見えてくる。老人の説教みたいになっちゃいますけども、ニュービジネスもいいけれども、**足元を見直すと、まだまだやる必要がありますよ。**免許証をどうやって取るかというのは、まだまだ社員の質を見ても上から目線満載だし、30万円もらって、フロントの一人が頭下げておしまい、そんなバカな話はないんで。その辺も含めて、形だけじゃなくて優しさを学習してほしいなと思います。

時々失敗することもあるんですけど、全国研究会でいい仲間がいて、内海会長の笑顔に救われて自分に少しは言い訳ができるような持ち物を持ってるというのは、ありがたいものですね。

私は60歳を過ぎて、この世界に入って、**ものすごく楽しい**です。人生二回やったようなもんで、公務員だけで終わらなくてよかったと思ってます。本当に人生楽しんでます。

内海力：ヒューマングループが大切にしてきた「ヒューマニティー経営」と、つばさプランの理念は見事に重なります。これからも進化していきます。今後ともご指導ください。ありがとうございました。



左：古澤社長 右：内海社長



Talk Persons

古澤 正巳 様

昭和 23 年生まれ
昭和 46 年 國學院大学文学部卒業

鹿沼市役所奉職
《在職中職歴》企画部企画係長 / 商工課課長 /
教育次長 / 鹿沼市教育研究所所長 / 市民部部長
平成 19 年 鹿沼市役所退職
平成 21 年 鹿沼自動車教習所に専務として入社
平成 27 年 代表取締役就任

※文中 内海力：ヒューマングループ 代表取締役会長 内海 和憲 内海リ：ヒューマングループ 代表取締役社長 内海梨恵子



KAZ
コラム-52-

会長 旅行記



ヒューマングループ会長が、2025年7月にアメリカ、9月にマレーシアを訪問。
各地域の様子や文化などを旅行記としてご紹介します。

アメリカ旅行記

11年ぶりのUSA訪問、行先はネバダ州リノとニューヨーク。リノの目的は53年前（学生の時）ホームステイでお世話になったアメリカのママさんのお見舞。残念ながら直接お会いする事はできませんでしたが、施設からズームでの面談。お嬢さんのデニスさん曰く、最近は笑顔がなかったが、カズ（会長のニックネーム）と会えたことで笑顔で話していて驚いたと言ってもらえました！

デニスさんとグレンさん（デニスのご主人）と深い話ができるよう今回は翻訳機を使って会話、USA経済、教育、トランプ大統領、USA年金システム、健康保険制度、地域のコミュニティ、高齢者ドライバー等、翻訳機のお陰でかなり踏み込んだ会話ができて、相互理解が今まで以上に深まりました。



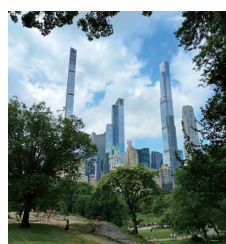
グレンさんとデニスさん

リノに3泊後〜シカゴ経由でニューヨークへ移動（時差3時間）早朝のフライトだったので、空港で朝食（マクドナルド）・日本では400円前後の朝マックがなんと1250円！ニューヨークでも食べ物の値段はほぼ日本の3〜4倍！物価高と聞いてはいましたが…。

ニューヨークマンハッタン訪問の目的は、11年前と比較してどう変わったか？それと今まで行っていなかった観光地の視察でした。マンハッタンはとにかく観光客で溢れており、そのほとんどがヨーロッパ、中国の人々、大好きなセントラルパークも朝から人・人・人…。

新しい観光スポットの視察、ハドソンリバーサイドの緑地公園開発はお見事でした！未体験だったブルックリン橋を歩いて渡り、スタテンアイランドフェリーに乗船、以前倉庫街だったソーホー、ブルックリン、ダンボは開発されて観光地となり、多くの人々で賑わっていました。18世紀後半に建てられた建物をそのまま使っているのが街並みがとても美しい！

知人との夕食はアスレチッククラブのレストラン、以前ロッキー青木さんとお会いした懐かしい場所。わかっていただけステーキが大きすぎて半分も食べられませんでした。ブロードウェイといえばミュージカル、今回はマイケルジャクソンのミュージカルを鑑賞したいと思い、当日チケット購入にチャレンジ！ラッキーにも前から4番目ほぼ中央の席(^^)をゲット、最後のスリラー凄かった！！



セントラルパーク



ブルックリン橋
（やっと渡りました！）



ブロードウェイ
（マイケルジャクソン）



グリニッジビレッジ
（Artがいっぱい!!）



アスレチッククラブのレストラン

最後の日はグリニッジビレッジを訪問、カフェ、バー、レストラン、ライブハウス、まさしく“ヒューマンアート”の街で、観光客ではなく地元の人々で賑わっていました。スモールズジャズで久しぶりJAZZを堪能！ワシントンスクエア周辺のこの場所、とても魅力的な街だと再発見！

チップ事情については、以前は15%前後を会計伝票に自分で書き込んでいましたが、現在は支払時に20%〜25%〜30%のボタンを押す仕組みに変わっており、最低でも20%！すべてカード払いです。地下鉄はクレジットカードのタッチ決済、ホテルで両替を頼んでも現金をおいてないと断られました。



10月にデニスさんご夫妻が
佐世保に来られました

マレーシア旅行記

20年ぶりにマレーシア（クアラルンプール）を訪問。
訪問の目的は二つあり、一つは友人の福喜さんから「ぜひマレーシアの成長の姿を見てほしい」とお誘いがあり、二つ目はマハティール元首相のリーダーの足跡を学びたいと思い、訪問して来ました。

香港経由で夜空港に到着。
福喜さんの友人であるリザルさんがわざわざ空港に迎えに来てくれたので助かりました。滞在中のスケジュールは事前にメールで確認していたのですが、毎朝7時30分前後のスタート、夜はホテル戻りが22時前後とハードスケジュールが組まれていました。嬉しいやら辛いやら。(笑)

初日はCSR活動参加（自然公園の植樹）、午後は公共副大臣との面談。
2日目は片道4時間かけて移動し、国立公園内の視察（手つかずのジャングル体験）なぜかハードウォーキング付き、ジャングルの中は湿度が高く、蚊に攻められ大変でした！
「なぜこのスケジュールを入れたのですか？」と聞いたら、「ミスターウチウミはアウトドアが好きなんだろうと思ったので…」確かに履歴書にマラソン、トライアスロンを経験！と書いていましたが…、「それは昔の話で、今はシティーボーイなんだ！」と言ったら皆んな大笑いでした。

3日目は国づくりに貢献した方々の記念碑とお墓を視察～政治機能が移転した都市（プトラジャヤ）視察、最後は人材教育会社とのミーティング！

リザルさんのアレンジのおかげで、濃厚な時間を過ごすことができました。世界の先進国から学び、リーダーが築く国づくりへの情熱、教育制度のしっかりした仕組みなどを学ぶことができました。訪問した時、独立記念日のあとだったため、街中にマレーシア国旗が掲げてあり、過去の歴史の中で植民地時代が長かった国だけに、独立記念日が国民にとって特別な意味を持っている事をあらためて感じました。

マレーシアの人々はイスラム教の教えに忠実でした。
ドライバーの方が突然いなくなり待たされる場面が何度もあり、「ドライバーの方は？」と聞いたら「祈りの時間です！」
周りの皆んなはその理由をわかっているのじっと待っているのに、納得！でした。
夕食時ワインを注文しようと思いましたが、マレーシアの方々の食事ではノーアルコールが一般的で、これも納得！
2日目の夕食は、道路沿いの屋台での食事でしたが、温かい人々とのひと時は心が和む思い出に残るシーンでした。

長崎県とマレーシアの交流の度に、ヒューマングループが応援させて頂いています。昨年のマレーシアの要人の方々が長崎に来られた際も、ヒューマンバスをご利用頂きました。その時マレーシアの方々からドライバーさんの対応が非常に良いねと褒められました！そのお陰で今回暖かく歓迎を受けることができました。
福喜さんのご紹介やバススタッフの皆さんがお客様に対してしっかりきめ細やかな対応をしていただいたおかげです。
"Terimakasih Malaysia !"

PS：マレーシア語で「ありがとう」は「Terima kasih（トゥリマ カシ）」です。

会長 内海 和憲



3日間共に過ごした仲間



新しい政治の街づくり



記念碑とお墓の視察



自然公園の植樹(CSR活動)



公共副大臣との面談



手つかずのジャングルツアー

ヒューマンポエム 青い窓

〈郡山市小学四年生の詩〉

ぼくのねぐせ
朝起きると
ぼくのかみの毛は
いつもボツサボサ
「おはよう」とあいさつすると
まっさきに笑われる
ぐっすりねている間に
何が起きているのだろう
プールの後だって
汗をかいた時だって
ちゃんとお風呂で頭を洗って
しっかりかわかした後だって
ぼくのかみの毛は
全然言っことを聞いてくれない
反抗期のぼくみたい

かみの毛だって、自由でいたい! 青い窓こどもアトリエ 橋本

NEW OPEN



ヒューマンスクール早岐併設

カフェ Pono

2025年8月、ヒューマニティーパークの1階にカフェ『Pono』をオープンいたしました。

『Pono』は、ハワイ語の「Ho oponopono (オポノポノ)」から生まれました。オポノポノは「正しい状態に戻す」という意味を持つ、ハワイ古来の問題解決法のことです。人々の心と関係を「正しい状態」に戻す場所として、ヒューマニティーパークの入口にこのカフェを設けました。人と人がつながり、自分らしさを取り戻す場所であり、ヒューマングループの経営理念「ヒューマンで人々を幸せに」を具現化した場所でもあります。

これから、地域の皆様やお客様にとって、「一杯のコーヒーを通して、あなたの心が少しずつ"Pono"な状態に戻っていく」ような場所を目指してまいります。



Access

〒859-3215

長崎県佐世保市早岐3丁目11-11ヒューマニティーパーク 1F

※営業時間はSNSをご確認ください。



最新情報は
コチラ!



WWW.HUMAN GROUP.CO.JP

ヒューマングループ ヒューマンスクール早岐 ヒューマンスクール松浦 リューコス
ヒューマンバス ヒューマントラベル アフラック保険代理店 カフェ Pono

(代表) 〒859-3215 佐世保市早岐3丁目12-6 TEL.0956-38-2257 FAX.0956-38-0547
https://www.humangroup.co.jp/ e-mail:hg@humangroup.co.jp

Living With Joy!

ヒューマンニュースレター vol. 52

発行 2025年11月

発行編集 ヒューマングループ企画室

Copyright © 2002-2025

Human Group Co.,Ltd All Rights Reserved.